

**合併から12年を迎えた
市政運営の今後は**

Q 市政運営の今後について。

A 市発展の礎となる重要な事業を複数、同時並行で進めています。合併特例債の優遇期間を踏まえ、今後、数年間は財政メリットを生かして地域課題を解決する好機であると同時に、将来の市を左右する極めて重要な時期であると認識しています。

Q 香取市史の編さんをどのように考えているか。

A 市としての歴史をどのように再構築するのか、その方向性を見極めた上で実施すべきと考えます。

Q 歴史道徳教育における郷土の偉人を取り上げた取り組み状況は。

A 道徳教育に限らず学校では社会科や国語科、総合的な学習の時間を利用して取り組んでいます。

Q 伊能忠敬翁没後200年祭事業はどのように取り組まれているか。



いのう としお
伊能 敏雄議員

A 平成29年3月に伊能忠敬翁没後200年記念事業実行委員会を立ち上げ、記念式典の開催と銅像建立事業を計画しています。その他記念事業として、友好都市等への伊能大図パネル全国派遣事業、伊能忠敬記念館での企画展、国宝図録の作成、伊能大図デジタルデータ検索システムの公開を計画しています。



樹木に囲まれている伊能忠敬翁銅像(佐原公園)



いとう ともりの
伊藤 友則議員

握に努めています。認知した場合は、学校いじめ防止基本方針に基づいて校内で組織的な対応を行っています。

Q 平成28年度のいじめ発生件数といじめの内容、その後の対応と状況は。

A 平成28年度のいじめ認知件数は合計23件で、内容は、ひやかし・からかい等が多く、また、軽くぶつけられたり、叩かれたりすることや、SNS上の誹謗中傷などです。このうち22件は解消しています。残り1件は解消に向け鋭意取り組んでいます。また、平成29年度からは、解消していると報告のあった事案も、学校に対して日常的な観察を継続し、3カ月後にその状況を報告するように指示しています。

Q 柏市教育委員会では、いじめを匿名で通報できるスマートフォン専用アプリの提供を市立中学校で開始した。匿名で報告・相談でき、導入の背景には、いじめを周りで見ても教員や親に相談しないケースがある。いじめを受けた生徒に対する市教

Q 忠敬翁銅像を仰ぎ見られるよう、佐原公園の再整備を図れないか。

A 顕彰事業の一環として佐原公園を整備していく計画はありませんが、銅像自体が道路側から見えにくい状況は認識しています。銅像がより見やすくなるように、通常の公園管理計画の中で樹木の伐採、また、銅像の管理等必要な対策を講じたいと考えています。

Q イノシシ出現地区と捕獲実態は。

A 平成28年度は、主に東大戸地区で多数の目撃情報が寄せられていました。捕獲実績は、平成28年度44頭です。捕獲場所は、片野地区方面20頭、鳥羽地区方面10頭、山之辺地区方面9頭、大戸地区方面2頭、大倉、上小川地区方面それぞれ1頭です。

Q 捕獲方法と資格者養成について、これらに対する補助制度等は。

A 市では、わなについては、箱わな・くりわな、銃器については、市民の安全性を考慮し、止めさしに限って許可を取得しています。市では、県の補助制度を利用し、新規にわな免許を取得する会員に対して、狩猟免許講習会受講料及び狩猟免許試験申請費用の2分の1を補助しています。

育委員会の調査でも、誰にも相談していないと回答した人が5%いた。アプリはこのような生徒に対するセーフティネットの役割も果たすと考える。この施策についての見解は。

A 柏市教育委員会に問い合わせたところ、最近の児童・生徒は口頭でのコミュニケーションを苦手とする者が多く、日常から使い慣れているスマートフォンアプリを利用した文字による相談が有効と考えますとのことでした。市としても、これらを参考に研究していきたいと考えています。

Q 市内小・中学生のスマートフォン所有率は。

A 平成28年度全国学力学習調査結果によるスマートフォンや携帯電話の所有率は、市内小学6年生で54.3%、中学3年生で80.2%です。原則として学校への携帯電話等の持ち込みは禁止しています。家庭からの事前連絡なしに児童・生徒が携帯電話等を持参した場合は、一時預かりし、保護者に持ち込み禁止の協力を依頼した上で返却しています。

いじめ対策について

Q 市教育委員会のいじめ予防線・指導や実際のいじめ把握の手法並びに対応への流れは。

A 電話相談窓口の設置、研修会の実施、リーフレットの活用で、いじめの予防、早期発見に取り組んでいます。学校では、日常の観察や生活ノート等に記載された内容に対し、丁寧に対応するとともに、定期的にアンケート調査や相談を実施し、いじめの把握



市教育委員会では学校生活の悩みを相談できる電話相談窓口を設置